

発行日 2013年11月30日

事務所：和歌山市三番町6番地 関西電電ビル4F 金原法律事務所内

<http://kodomomiraikibou2012.seesaa.net/> 連絡先・事務局：TEL:073-451-5960 (松浦)

「子どもたちの未来と被ばくを考える会」は、放射能汚染による被害から子どもたちを守り、安心安全な環境の中で生きることができるよう活動している団体です。

福島原発事故から2年半が経ちました。原発事故やその影響について、和歌山での市民意識はどのようなものか、アンケート調査を行いました。

■ 調査方法

対象； 通行中の市民（アンケートに応じてくれた方）

日時； 2013年11月9日（土）10:30～12:10

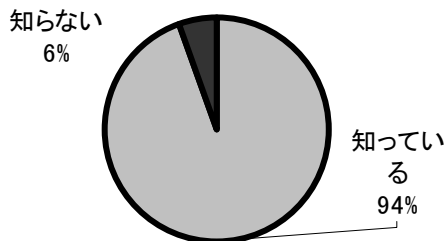
場所； JR和歌山駅前 調査員；会員9名 有効回収数；107人

回答者の年代・性別の内訳；

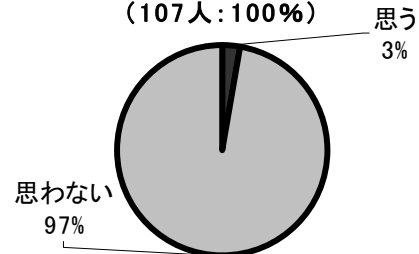
10・20代が最も多く全体の約半数、次いで70・80代が20%、30・40代及び50・60代が各々約15%です。性別は、男性40%、女性50%、未記入が10%です。

■ アンケート調査の結果

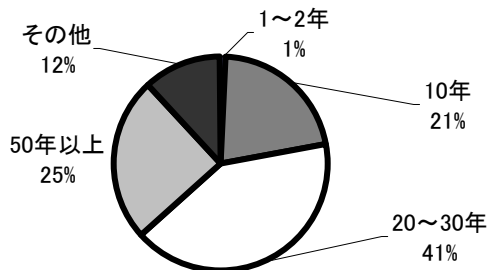
汚染水の海への流出を知っていますか
(107人:100%)



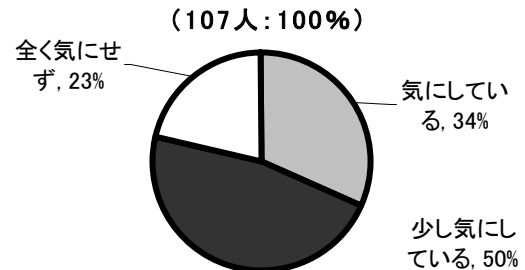
オリンピックまでに解決すると思いますか
(107人:100%)



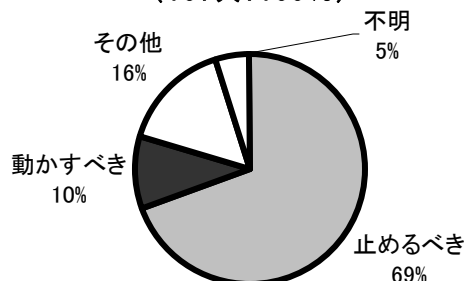
事故処理にあとどれくらいかかると思いますか
(107人:100%)



食品の放射能汚染について日常気にしていますか
(107人:100%)



原発をどうすべきだと思いますか
(107人:100%)



行政に求めること、日頃思っていることは？（一部を抜粋）

- ・原発について正しい情報を出すべき。　・隠さないで本当の状況を知らせて欲しい。
- ・市民や国民の声を無視するな、ちゃんと耳を傾けてほしい。
- ・事故処理について、無駄なお金を使わないで本気で取り組んでほしい。
- ・政府は、放射性廃棄物の最終処分の方針をきちんと示し国民に発表すること。
- ・原発にかわる代替エネルギーの開発。　・小泉元首相の脱原発発言を評価する。

アンケート結果より、汚染水や福島原発事故の収束には、オリンピックの2020年どころかまだまだ長い年月がかかるという現実が捉えられています。

食品の放射能汚染については、具体的対策までは多いとはいえないが、気にしている人が大多数でした。また、マスコミ等の世論調査の傾向と同様、**原発は止めるべきという意見が最も多く全体の7割を占めました**。動かすべきあるいはその他とする人も、「当分は仕方ない」といった、消極的意見によるものが多かったです。

自由記述では、原発について情報公開の現状への不信が目立ち、**市民の側から情報発信を求めるものが多くありました**。政府への注文として、原発の事故処理対策、長期的対策についての意見がありました。

◆ 調査に参加した会員の感想

- ・ 現在原発が一基も動いてない事を知らない人が何人もいたのに驚きました。（M.M）
- ・ 思っていた以上に短時間で、目標としていた調査数が集まりました。また「政府・東電はもっとしっかり対応してほしい」と話しながら記入してくれた人もいました。みなさん、原発については「言いたい!!」という気持ちが強いのだな、と実感しました。（U.K）
- ・ 毎度のことだが、声をかけても無表情に行き過ぎる人が圧倒的に多く、今の日本を象徴していると再び痛感。一方、数分で済むとは言え、休日の駅前、足を止めてアンケートに応じる人がいて、その中にはアンケートの内容や対話の中で新たな情報に触れて驚く人がいる。それだから、こうしたアクションを粘り強く続ける必要がある、と今回も強く感じた次第。（I.N）
- ・ 思っていたより若い人たちがたくさん協力してくれました。アンケートしながら、放射能や原発について、道行く人と話をして色々考えを聞くことができたのも良かったです。（A.S）

当会の詳細については、「子どもたちの未来と被ばくを考える会」で検索して下さい。